

東京経営短期大学

令和3年度

「文系短大におけるDX社会へのリテラシー教育」

(ICT・データサイエンス・AI・DXリテラシー関連教育)

に関する自己点検・評価報告書

令和4年3月10日

東京経営短期大学

DXヒューマン・ソサエティ研究所

1. 本自己点検・評価の趣旨と目的

東京経営短期大学学則および東京経営短期大学自己点検・評価の結果を踏まえ、本学の建学の精神と教育理念・教育方針に基づき、DX 社会と Society5.0 に向けた ICT・データサイエンス・AI 進展への変革に対応できる人材の育成を目指すために東京経営短期大学に DX ヒューマン・ソサエティ研究所を新設し、さらに自己点検・評価委員長（学長）の下に、新設研究所が主体となり、「文系短大における DX 社会へのリテラシー教育」（ICT・データサイエンス・AI・DX リテラシー関連教育）に関する自己点検・評価を実施する。

2. 本自己点検・評価の組織

東京経営短期大学自己点検・評価委員会が行う学内の自己点検・評価の一環として DX ヒューマン・ソサエティ研究所が主体となって実施する。また、本自己点検・評価は大学自己点検・評価委員会と教育経営会議・大学運営会議および経営総合学科・こども教育学科で分析し、全学の各教育レベルで教育研究内容に反映させ、改善へ向けて段階的な実施対応を進める。

3. 2021 年度の本自己点検・評価の対象

東京経営短期大学の教育研究体制およびその内容に関して、「文系短大における DX 社会へのリテラシー教育」（ICT・データサイエンス・AI・DX リテラシー関連教育）に関連する 2021 年度開講の学科授業科目および教育と、教育を受けた履修学生の学習成果と授業評価を対象とする。ただし、本テーマの教育プログラムに関しては本学がまだ段階的な改善途中であることを考慮し、教育環境と教育背景に関しても自己点検・評価を行っている。

4. 自己点検・評価の結果

4-1. 東京経営短期大学の ICT・データサイエンス・AI・DX リテラシー関連教育について

(1) 全学自己点検・評価結果との関連

これまでの全学自己点検・評価委員会の意見と結果を踏まえ、本学学生に対しては、入学前教育、入学後のガイダンス、オリエンテーション、1 年次基礎ゼミナール、2 年次専門ゼミナール等において ICT の入門基礎的な教育や現代社会との関連を教育し、アンケートを取得し活動に反映している。また、こども教育学科を含め様々な地域連携活動を行っているが、ICT 関連では、両学科における本プログラムの必修科目と関連専門選択科目以外には、短大全体としての全学的活動の点検評価事項はまだ特に言及されていなかった。全体的には各学科の開設授業に関しての履修学生のアンケート結果における評価は高く、キャリア教育活動における学外からの評価も高いが、学外の各層、特に企業からの ICT やデータサイエンス・AI 対応能力に対する学生教育への要望が大きくなり、2021 年度の本学 DX ヒューマン・ソサエティ研究所の設置に至っている。本自己点検・評価報告もその関連で 2021 年度末に実施したものである。

(2) 学修成果向上に対する教育環境

本学には3つのPC演習室があり、121台のコンピュータが設置され、各学生にICT教育やゼミナール等の授業が可能で、全教室にも教材提示用PCとスクリーンが設置され、各教員の授業に活用されている。大学内にはシンクライアントシステムが導入されており、学内Webアンケート実施、Webポータルによる登録申請はもちろん、e-ラーニング利用も併用して学修成果を挙げている。また、本学の図書館には司書資格の専門職員1名を配置するとともに、蔵書検索用端末を設置し、さらにインターネットを通し各研究室と実習用・学生用パソコンからの検索はもちろん、家庭のパソコンや携帯からも蔵書検索を可能とし学生の学修成果を挙げている。2021年度も新型コロナウイルス対応でハイブリッド型授業を余儀なくされたが、同時に遠隔授業のノウハウと教材に対する蓄積がなされているので、遠隔授業を含むオンデマンド授業を視野に置いた体系的な保存システム・アーカイビング体制の構築が望ましい。特にICT/DXについての自己点検・評価に関連する内容としては、現在、新設のDXヒューマン・ソサエティ研究所を中心として、DX関連教育の全学的学修調査を目指して経営総合学科で採用された回転の速いGoogle Classroom等によるLMS活用を進めており、このシステムにより科目履修に対する履修学生の素早いレスポンスと授業改善への対応が可能となっている。これらの活動はこれから学生の高い学修成果に充分反映できるものである。

(3) 学生の履修向上に対する現状

学生に対しては、入学予定者に対する入学前教育、入学後のガイダンス、オリエンテーション、1年次の基礎ゼミナール、2年次の専門ゼミナール等においてICTの入門基礎的な教育や現代社会との関連を教育し、アンケートを取得し活動に反映している。学生アンケートに関しては、より回転の速いGoogle Classroom等によるLMS活用を進めており、大学科経営総合学科内のLMSを構築しアジャイル的に試行しており、得られた関連科目受講学生アンケートによれば、履修学生の理解度・興味に関して高い評価が得られつつあるが、ICT・データサイエンス・AI教育プログラムに関しては、この方式を全学に敷衍して、教員の教育内容により効率的に反映できるものとして、PBLやアクティブラーニング、反転授業的な活動へ展開することを考えている。

(4) 全学授業体系に対する現状と問題点

東京経営短期大学には4コース大学科である経営総合学科と、こども教育学科があり、文部科学省・厚生労働省に対する資格申請との関連で、特にICT・データサイエンス・AI関連の授業に関し、こども教育学科においては2年間のカリキュラムスケジュールがタイトである。従ってそのシラバスと時間割には工夫が必要である。また学生は各自の資格に直結する授業を重視する傾向があり、全学的な教育展望と現代社会との関連に関して視野が狭くなる可能性があった。つまり、各学生の希望する進路と短大内のカリキュラム及び授業との間の関連性に対する可視化の工夫が強く望まれている。つまり新設研究所を中心に、文系短大学生に分かり易

く、興味を誘起できる ICT/DX/AI 関連の授業内容とシラバス・科目名等の工夫が必要となっている。

ICT 教育に関しては、経営総合学科において、MOS 資格 (Word・Excel) を 1 年次の 12 月までの取得推奨を行っており、全学的にも歴史的に MOS 資格取得を目指す 1 UP 塾などの学内塾教育の取り組みがあり評価も高いが、残念ながら歴史的に全学的な正規開講科目としてのものではないため、履修学科学生に偏りがあり、文部科学省等への各種申請に際し、これまでは正規科目として強調記述ができなかった。この点検結果を踏まえて全学的な実質科目単位への移行が望ましいと判断される。

4-2. 本自己点検・評価のまとめと今後の対応

本自己点検・評価により、2021 年度の東京経営短期大学における ICT・データサイエンス・AI・DX 分野の教育の現状と問題点が指摘された。この結果を踏まえて、本分野の教育に対して、以下の対応を段階的に実施する必要があると判断される。

1. 新設の東京経営短期大学 DX ヒューマン・ソサエティ研究所の活動の全学的な充実と協力体制の確立
2. 文部科学省に対する ICT・数理データサイエンス・AI 教育プログラムへの本学教育プログラムの認定申請
3. ICT・データサイエンス・AI・DX 分野の教育に関連する授業科目名の全学統一と全学開講科目の充実 (大学科の経営総合学科開講科目の全学開講への無理のない段階的展開)、新設研究所による全学授業の開設
4. 学内塾システムの履修率向上と全学単位 (卒研の選択に相当する単位) への実質化
5. 4 コース大学科の経営総合学科において構築を試行している Google 系アプリ利用の教育 LMS システム (各教科履修学生アンケートシステムを含む) とカリキュラム・シラバスとの融合、既存全学教育管理システムとの融合試行、および LMS システムの全学試行へ向けた活動
6. 学生が参画する ICT 関連の産学連携・キャリア教育プログラムの充実
7. 東京経営短期大学の各学生の希望進路と ICT・データサイエンス・AI の展開する現代社会との関連性の可視化、分かり易さに対する全学的工夫、新型コロナ対応のハイブリッド型授業の展開結果に基づく遠隔授業のノウハウと授業・演習内容のアーカイビング体制の確立
8. 国内外の ICT・データサイエンス・AI・DX 分野の先進事例や先進機関との連携および情報共有
9. ICT・数理データサイエンス・AI・DX 分野の高大連携と入学前後教育の充実